

「私のよりどころ ―私が剣道を続けるわけ―」

東京都

東京櫛剣士会

小学5年 後藤珂音

「勝つだけが剣道じゃないよ。人間形成が大事なんだ。」

こう言って、大会で結果の出ない私を励まし、勇気づけてくれるのは、決まって近くに住んでいる祖父だ。ただ、そんなことは分かっているつもりだ。これまで何度も言われてきたから。いや、分かっていないかもしれない。だって、負けると父からは必ず怒られる。やっぱり勝たないと褒められないじゃないか。勝っても怒られる事さえある。そもそも、勝つだけが剣道じゃないってどういうことなの。人間形成って何なの。よく分からないけれど、とにかく稽古を頑張っていればいいはずだ。厳しい稽古に耐えて、剣道が続けていけばいいのだろう。そう信じていた。

私が育った環境は、祖父、父、母、おじが三人、おば、そして弟が、剣道の経験者、または今も剣道をしている。この話をすると、「剣道一家だね」といろいろな人に言われる。そういえば、幼いころから、家族の間でも、親戚が集まる場でも、よく剣道の話が出ていた。おじの試合の応援にも、よく行っていたけれど、最初は怖くて試合会場に入れないくらいだったことを覚えている。剣道が嫌だった。それでも、ある時、父やおじに混ざって剣道がやってみたいと思うようになり、自然と幼稚園の年中から剣道を始めた。今となっては、生活の一部になっている。

私には、ライバルがいる。相手は、私の事をライバルと思っていないかもしれないけれど、私にとっては絶対に負けたくない人だ。そのことは、家族みんなが知っている。だから、その相手と対戦するときは、父、母、祖父、祖母の応援の声が大きくなるのが分かる。私にとっては、大きなプレッシャーだ。最近では、何度も戦っているうちに、実力の差が出てきている事を感じてきた。だから、正直に言うと、家族にはあまり見てほしくないと思っていた。周りの剣道仲間より、少し早く剣道を始めたせいも、同学年の男子にも簡単には負けなかったけれど、段々と追いつかれてきて、今では勝てない仲間もいる。試合に負ける悔しさはだんだんと薄くなってきて、でも負けるのが怖くなって、気付いたら剣道が好きではなくなり始めていた。

そんな日々を大きく変える出来事が、突然、私に降りかかってきた。新型コロナウイルスの影響で、稽古が全く出来なくなったのだ。本当のことを言うと、剣道の事が嫌になり始めていた私にとって、稽古が出来なくなることは、ラッキーに感じていた。

ある日、家族で昔の大会の話をしていた時に、ある大事なことに気付いた。私は、これまで出場した大会が、何の大会なのか自分で分かっていたのだ。つまり、親や先生に連

れていかれて、ただ試合をしているだけだったのだ。また、自分の得意技で気持ち良く勝った試合のことは覚えているけれど、負けた試合のことはほとんど覚えていない。私がやらな
いといけない事は、自分の考え方、稽古への向き合い方を変える事なのだ。それに気付いて
から、なぜか、ふと剣道の事を考えている時間が多くなった。無意識に、家の床を踏み込ん
だりしている事もある。徐々に、稽古が再開されると、私は今まで出来なかったすり上げ面
の練習を自主的にやっている。今は自分の目標を口にする事もできる。コロナというピン
チを、自分が変わるきっかけにする事が出来た。今では、稽古が出来ることに感謝する心
を持つこともできた。祖父が教えてくれた勝つ事より大事な事、「人間形成」はきつこう
いうことなんだ。

「かのんのひいおじいちゃんは、病気で入院してた病院を抜け出して、子供達に剣道の指導
をするような人だったんだよ。」

私をいつも勇気づけてくれる大好きな祖父の父は、剣道がすごい人だったようだ。そんな
祖父も、今重い病気と戦っている。大変な身体でも、稽古を見に来てくれる祖父が、最後
に見てくれた試合は、負けた試合だ。今は、試合に出たい気持ちでいっぱいだ。そして、祖父
に見てもらいたい。負けてもいいから。そして、祖父に言ってもらいたい。成長したねって。
私の将来の事を思って、応援してくれる祖父が、私にとって剣道続ける心のよりどころな
のです。